さらにおいしくなったブランドポーク

豚肉の生産から精肉・加工品の販売まで行う観音池ポークグループ（高城町）が2月15日、笹サイレージを与えた「観音池ポーク」を河野知事や池田市長ら約100人の参加者に披露しました。放置竹林が社会問題となる中、大和フロンティア㈱（高崎町）が、竹を発酵させ飼料として活用する笹サイレージを生産。それを餌に加え、育てた豚の肉質が良くなり、今回の発表となりました。馬場通代表は「笹サイレージで、これまで以上にグレードの高い豚肉を生産できる」と誇らしげに話しました。

笹サイレージを与えた観音池ポーク発表会

保全活動を学び実践につなげる

NPO法人都城大淀川サミットが主催する大淀川環境大学が2月16日と17日、川の駅で開催されました。河川環境や川の文化などを学び、河川浄化などを実践する人を養成する目的で開催されたこの講座。17日の講座には、市民ら約30人が参加し、企業や行政などが実践している環境保全活動の発表に熱心に耳を傾けていました。同法人の奈下信芳理事長は「多くの人に大淀川の大切さを知ってもらい、活動に参加してもらえるように、これからも取り組みを続けていきたい」と意気込んでいました。

大淀川環境大学

プロの技術に触れる

プロ野球ソフトバンクホークスのOBが小学校を訪問し、野球の楽しさを伝えるキャッチボールキャラバンが2月20日、中霧島小学校で行われました。新垣渚さんら元プロ野球選手3人が、ボールの投げ方や打ち方などを指導。児童らは、間近で見るプロの技術に歓声を上げながら楽しんでいました。矢野竜侍さん（3年生）は「プロで活躍した選手は大きくてかっこいい。野球をあまりしたことがなかったので、知らなかったことをたくさん教えてもらえた」と目を輝かせていました。

中霧島小学校　キャッチボールキャラバン

海を越えて国際交流

オーストラリア連邦クイーンズランド州立バーペンガリー中等学校（BSSC）の生徒6人と、高城中学校の生徒11人が2月20日、テレビ会議で国際交流する授業を行いました。授業には、これまでの中学生海外交流事業でBSSCを訪問した生徒も参加。互いの学校生活や食・伝統文化を紹介して、質問し合いながら交流しました。文化祭や運動会、百人一首の活動などを英語で紹介した安田凌さん（3年生）は「写真を使って、自分たちの普段の様子を伝えられて良かった」と手応えを感じていました。

高城中学校　テレビ会議で国際交流授業

はばたく！ 都城の6次化商品

平成29年度6次産業化新商品発表会が2月20日、市役所で開催されました。市内外での新商品の認知度向上と販売増を図ろうと、はばたけ都城六次産業化推進協議会が企画。今回は、4事業者が試行錯誤を重ねて開発した新商品をプレゼンテーションした後、試食会を行いました。新商品を試食した池田市長は「おいしいのはもちろん、安心・安全にこだわった消費者目線の商品ばかり」と太鼓判を押していました。今回発表された新商品も含め、6次産業化商品は、道の駅「都城」などで購入できます。

6次産業化新商品発表会

美術館の充実に寄与

柳田喜美子さん（東町）が2月23日、本市出身の日本画家・益田玉城（ぎょくじょう）が描いたびょうぶ絵「姫街道」を市に寄贈しました。玉城と親交のあった柳田さんの祖父・山内哲正（てっしょう）さんが依頼し、1932年に制作されたこのびょうぶ絵。前年の帝展で入選した「姫街道」を元に、湖畔を歩く婦人らの姿や富士山などが色鮮やかに描かれた名画です。柳田さんは「実家で宝物として大切にしてきたこの絵を、市民の皆さんに広く鑑賞してもらい、市立美術館の充実に貢献できたらうれしい」と目を細めていました。

益田玉城「姫街道」の寄贈

制度を知ってもらい共にPR

ふるさと納税市民向けイベント「日本一の肉と焼酎まつり」が2月24日、地場産業振興センターで開催されました。平成27・28年度の寄附件数・寄附金額が日本一となった本市のふるさと納税。その取り組みや寄附の使い道、返礼品の魅力を市民に知ってもらう目的でイベントが開催され、会場は多くの家族連れらでにぎわいました。担当の野見山修一主幹は「都城のふるさと納税を広く知ってもらう良いきっかけになった。市と一緒に市民の皆さんも全国にPRしてほしい」と期待を込めていました。

日本一の肉と焼酎まつり

子どもが主役の触れ合いイベント

福祉のつどい「子どもフェスティバル」が2月25日、山田総合福祉センターで開催されました。山田地区社会福祉協議会が企画し、11回目の開催となった同イベント。町内の小・中学生の意見発表や山田中学校吹奏楽部の演奏、秋田県潟上市との学校間交流報告、ステージ発表などに、地域住民らが詰め掛けました。新穂美代子実行委員長は「雨にもかかわらず、例年以上の大盛況。子どもが幸せならば、地域全体が幸せをテーマに、赤ちゃんから高齢者まで楽しんでもらえた」と手応えを話していました。

福祉のつどい「子どもフェスティバル」

夢の選択肢を広げる

企業経営者の話を聞く「夢見る課外授業」が3月12日、沖水中学校で行われました。市と都城商工会議所、宮崎県中小企業家同友会が、市内の中学・高校生に地元企業や創業の素晴らしさを知ってもらい、職業選択の際に役立ててもらおうと開催。今回は、ホームページ制作などを行うTNAソリューションデザイン㈱の竹原英男代表取締役が、創業の苦労や楽しさなどを講演しました。竹原さんの「今やりたいことを全力でやろう」というメッセージに、生徒らは真剣に耳を傾けていました。

沖水中学校　夢見る課外授業

地域の課題をみんなで解決！

高齢化や過疎などの問題に直面する地域を元気付けようと3月11日、高城町有水で高齢者宅の家具固定が行われました。学校運営協議会や小・中学生の保護者などで組織する、有水の将来を考える会が企画。小・中学生や地域住民40人が参加して、17戸の高齢者宅を訪問し、地震の際に転倒の危険がある寝室の家具などを、滑り止めと金具で固定しました。実行委員の有馬政彦さんは「普段から住民同士が顔を合わせれば、協力意識が生まれる。日ごろの協力が災害時に生かされる」と力を込めていました。

高齢者宅の家具固定

人の風景

smiling faces of miyakonojo

第１回全九州高校総合文化祭　弁論部門

（第67回九州高等学校弁論大会）

最優秀賞受賞

狩長（かりなが）　英里（えり）さん

（都城聖ドミニコ学園高等学校１年）

昨年12月に沖縄県で開催された全九州高校総合文化祭の弁論部門で、都城聖ドミニコ学園高等学校1年の狩長英里さんが最優秀賞を受賞しました。

同文化祭は、九州各県の高校生に芸術・文化活動の総合的な発表の場を提供し、活動への参加意欲を高め、創造的な人間を育成する目的で、昨年初めて開催されました。書道や美術工芸、吹奏楽など12部門に各県の代表が参加。日ごろの活動の成果を披露しました。

狩長さんが出場した弁論部門には、学校生活や部活動などを通して経験したことや感じたことなどをテーマに25人が出場。狩長さんは、自身の経験をまとめた「考え方をシフトする」という演題で意見を発表しました。内容もさることながら表現力が高く評価され、見事、最優秀賞を受賞。「会場には地元の高校生などたくさんの人がいたので、とても緊張した」と大会を振り返り、「内容や表現が優れていると感心する人がたくさんいた。結果発表を聞いたときはびっくりしたが、とてもうれしかった」と喜びを話します。

狩長さんの弁論「考え方をシフトする」は、自身がいじめに遭い、そこから立ち直った経験をまとめたものです。中学時代にささいなことがきっかけでいじめに遭い、一時期は死ぬことを考えるほど悩んだ狩長さん。その状況から救ってくれたのは、クラスメートから掛けられた「みんなに好かれなくても、英里さんのことを好きでいてくれる人と楽しく過ごせばいい」という言葉でした。

この言葉がきっかけで「いわれのない悪口なんかに振り回されるのはやめよう。相手にしなければいいんだ」と考え方が変わり、心にゆとりが生まれました。この経験を話すことでいじめで悩む人の力になれればと思い、今回意見を発表しました。

放課後を利用して、弁論の練習に励んだ狩長さん。「伝えたいところをゆっくりと大きな声で、相手の目を見て訴えるように話すことを心掛けた。また、練習を重ねるにつれて話すことに慣れてしまったので、当時のことを思い出しながら話すようにした」と話します。

今年8月に長野県で開催される全国総合文化祭に向けて準備を進める狩長さん。「私の発表を聞いて、今悩んでいる人が少しでも前向きになってくれるとうれしい」と笑顔で話しました。

悩んでいる人の心に届くよう
自分の経験を真っすぐに伝える